



# 仁淀病院からのお知らせ



## 来るべき南海地震に備える — 災害医療対策 —

仁淀病院 院長 松浦喜美夫

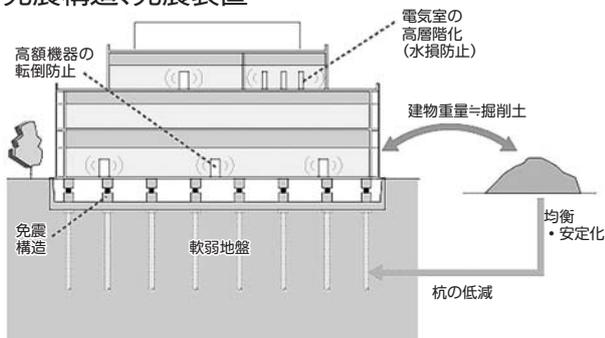
東日本大震災から1年が過ぎましたが、いまだに被災地では多くの方が、がれきの撤去問題や仮設住宅での生活など、不便な生活を余儀なくされています。高知でも南海地震が今後30年以内に60-70%の確率で起こるとされており、次第に危機が迫っています。またその規模は、東海、東南海、南海の3連動で起こるマグニチュード9程度の超巨大地震の可能性も指摘されており、揺れや津波による大きな被害が予想されます。いの町でも大きな被害が予想され、その対策が必要です。仁淀病院も南海地震に備え取り組んでいますが、その対策について紹介します。

### 災害時の病院機能対策

#### 仁淀病院の免震構造

病院の地下には地震の揺れから建物と医療機器を守る免震装置があり、建物は震度6強以上の地震にも耐えられるように、また地震第1派波の衝撃を吸収し、病院内の揺れを抑え、CTなどの高額な医療機器や病院設備の破損をできるだけ少なくし、震災後でもできるだけ早期に医療活動が再開できるように設計されています。

#### 免震構造、免震装置



建物と医療機器及び医療機能を守る免震建物



### 災害時の病院機能対応

ライフラインが途絶え、病院機能の維持に大きな支障が生じることが危惧されます。

#### 電源の確保(自家発電設備を保有)

停電の発生が考えられるため自家発電装置を備えています。非常電源回路が院内に張り巡らされており、平常時は通常電源から供給され、停電時に発電機からの供給になります。停電時間が1分以上の場合、発電機が自動的に運転します。人工呼吸器などの装置は普段から非常電源回路に接続されており、非常時には自動的に自家発電装置から電源が供給されます。また発電機の燃料はフル運転で3日分貯蔵しています。

#### 飲料水等の確保

水の確保は、地下には受水槽があり、上水道、井水及び下水を貯めるようにしています。

#### 上水設備

公道部水道本管から引き込まれた水道水は、地下ピットの受水槽に貯留し、給水ポンプで各所に給水を行っています。地震などで水道本管から供給が途絶えたときは、受水槽から供給され、容量は26m<sup>3</sup>で通常使用で半日分量、災害時の制限使用で3日分です。